# 令和2年度

# 授 業 概 要



四国医療専門学校スポーツ医療学科

# 目 次

1.	゙ まんがき	1	スポーツ動作の観察と分析 41
2.	学科の基本理念、教育目標	2	検査の測定と手法 I ······ 42
3.	3 つのポリシー	3	検査の測定と手法Ⅱ 43
4.	. カリキュラムマップ	4	コンディショニング I 44
5.	. 履修規定	5	コンディショニングⅡ 45
6.	. 学事暦	13	コンディショニングⅢ 46
7.	カリキュラム	14	アスレティックリハビリテーション I …47
8.	自治会会則	15	アスレティックリハビリテーションⅡ…48
9.	・シラバス		アスレティックリハビリテーションⅢ…49
	(1) 共通科目		救急処置 50
	スポーツ心理学 I ····	19	アスレティックトレーナー総合演習 I …51
	スポーツ人間学	20	アスレティックトレーナー総合演習Ⅱ…52
	スポーツ経営学	21	(3) 現場実習
	コーチング論I	22	見学実習 53
	コーチング論 Ⅱ	23	検査・測定と評価実習、アスレティックリハ
	発育発達論	24	ビリテーションプログラム作成実習54
	トレーニング科学 I	25	スポーツ現場実習 55
	スポーツ医学 I	26	アスレティックリハビリテーション実習…
	スポーツ医学Ⅱ	27	56
	スポーツ栄養学 I	28	総合実習 I ······57
	(2) 専門科目		総合実習Ⅱ58
	スポーツ栄養学 Ⅱ	29	
	アスレティックトレーナーの役割…	30	
	トレーニング科学 Ⅱ	31	
	バイオメカニクス	32	
	運動生理学	33	
	スポーツ心理学 Ⅱ	34	
	運動器の解剖と機能 I	35	
	運動器の解剖と機能Ⅱ ·····	36	
	運動器の解剖と機能Ⅲ	37	
	スポーツ外傷と障害I	38	
	スポーツ外傷と障害 Ⅱ	39	
	スポーツ医学皿・・・・・	40	

# まえがき

スポーツ医療学科は、アスレティックトレーナーやトレーニング指導者を養成するために設置された学科です。医療有資格者や、医療資格を取得するために学んでいる学生の中に、将来スポーツ選手に関わる職業に就きたいという希望が多いことを受けて本学科が設置されました。スポーツ選手に関わる職業(特にトレーナーやトレーニング指導者)には医療知識が必要不可欠であり、本校のような医療系専門学校が本学科を設置するのはとても重要なことなのです。

本学科ではスポーツ選手に特化した医療知識と、トレーニング科学、スポーツ栄養、スポーツ心理学、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどのスポーツ現場に必要な知識と、各種検査法、テーピング、ストレッチング、スポーツマッサージなどのスポーツ現場で生かせる技術の習得を目指します。

本学科のように2年間夜間部で設置しているのは中四国では本校だけです。社会人として働きながら、または本校他学科との併修をしながら学べる利点があります。

医療資格者だけでなく、体育系資格者や、競技選手として顕著な成績を納めた者にも学 びの機会を持ってもらえるようにも配慮しています。

この冊子は皆さんがスポーツ医療学科に入学した学生として有意義な学生生活を送るための手引きとなるよう作成されたものです。

一通り目をとおし、また必要に応じて参照することによってより充実した学生生活を送ることを願っています。

なお、この冊子は必ずしも全てにわたって説明が網羅されているわけではないので、疑問や不明なことがあった場合は遠慮なく教員に相談してください。

# スポーツ医療学科の基本理念、教育目標

# 教育方針

- 1. スポーツ指導者としての知識・技術を習得させ、それを基盤にスポーツ現場や医療現場で活躍できる人材を育成する。
- 2. スポーツ選手と共に考え、行動するスポーツ指導者の育成を図る。
- 3. スポーツを愛し、楽しみ、スポーツの厳しさを感じられる豊かな心を育てる。

# 教育目標

- 1. 教育方針に従い、スポーツ選手に関わる者としての高い水準の知識・技術・技能を習得させる。
- 2. 仲間と助け合い、他人を思いやり、自分自身も大切にできる、豊かな心を育む。
- 3. 社会や自分の所属する組織の中で何ができるか、何をしなければならないかを常に考 えて行動できる賢さを育む。
- 4. (財) 日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー資格を取得する。
- 5. 卒業までに(NPO)日本トレーニング指導者協会トレーニング指導者資格を取得する。

# スポーツ医療学科の3つのポリシー

# アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

ジュニアからトップアスリートまでのすべての競技者の夢を叶える熱きこころを持った 人、ならびに地域スポーツに貢献したい人を歓迎します。

# カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

- 1. 身体の構造・機能を理解し、スポーツ傷害に関する知識を身につける。
- 2. アスレティックリハビリテーションに関する正確な知識と基礎技能を身につける。
- 3. 競技者のパフォーマンスを向上させるための科学的な知識と基礎技能を身につける。
- 4. 体力測定・評価とコンディショニングに関する専門的な知識を身につける。
- 5. コンディショニングに関する基礎技能を身につける。
- 6. 競技者の健康、生命に関わる救急処置の知識と技能を身につける。
- 7. 栄養に関する知識を身につける。
- 8. ドーピングコントロールの知識を身につける。
- 9. チームマネジメントとトレーナーの役割を理解する。

# ディプロマ・ポリシー (修了証書授与方針)

本学科の定める所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に対して修了証書を授与する。

- 1. 人体の構造と機能に対する基礎的な理解
- 2. リハビリテーションに対する基礎的な知識と技能
- 3. トレーニングに対する基礎的な知識と技能
- 4. 競技者の評価方法に対する基礎的な知識と技能
- 5. コンディショニングに対する基礎的な知識と技能
- 6. 救急処置の知識と技能
- 7. 競技者に対する栄養学の知識
- 8. ドーピングに関する知識
- 9. チームマネジメント

# カリキュラムマップ

# 1年生

スポーツ指導者、ATの基本的な学習を する期間。

2種類の資格取得を目指します。

#### 【日本スポーツ協会共通科目 Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ】

コーチ、ATなどの日体協公認指導者資格を 目指す者が、共通して学ばなければならない スポーツ選手に関する基本的な学習をしま す。

# 【AT現場実習 ①】

ATとしての現場実習(見学実習、検査測定実習、スポーツ現場実習)を体験します。 テーピング、スポーツマッサージ、検査測定などの技術習得を目指します。

# 【日本赤十字社 救急法救急員】

日常生活およびスポーツ現場における救急 処置、救命処置を学びます。この資格を有し ていないとAT検定試験を受験できません。

1年生の9月に学外で講習会と検定があります。

# 【日本トレーニング指導者協会 トレーニング指導者 (通称:JATI)】

各種のトレーニング方法の理論と実践について学びます。実際に自分がトレーニングを しながら指導方法を学んでいきます。

1年生の1月~2月に岡山で検定試験を受験します。

# 2年生

ATとしての本格的な学習をする期間。 日本スポーツ協会公認AT資格取得を目 指します。

# 【日本スポーツ協会 AT専門科目】

本格的なATとしての専門科目の学習を します。

2年生の11月に大阪で第一次検定試験 (理論試験)を受験し、合格者が翌年の2 月~3月に大阪で第2次検定試験(総合実 技検定)を受験します。

検定対策も行い、受験サポートをしていきます。

# 【AT現場実習 ②】



ATとしての現場実習(アスレティックリハビリテーション実習、総合実習)を体験します。ATとしてスポーツ現場でどのように選手と関わるかを学びます。

# 四国医療専門学校 履修規程

この規程は、入学してから卒業するまでの学生の履修について、学則、その他の細則を補足しながら 特に注意しなければならない事項を規定する。

#### I. 学事について

1. 学年

授業は、学事暦に従って行われる。

学年は、4月1日から翌年3月31日までで、これを前期と後期の2期に分ける。

#### 2. 学期

学年の学期は、次のとおりであるが、学校長は、必要によりこれを変更することができる。

前期・・・ 4月1日から 9月30日まで。

後期・・・10月1日から 翌年 3月31日まで。

# 3. 休業日

本学科の休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日、土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定されている日
- (3) 創立記念日(10月25日)
- (4) 夏・冬・春季休業日
  - ① ただし、学校長が必要と認めるときは休業日であっても授業または試験を行なうことができる。
  - ② 荒天時の対応

鍼灸マ学科、鍼灸学科1部、柔道	荒天のため、宇多津町または丸亀市に「特別警報」「暴風警報」が午
整復学科 1 部、理学療法学科、作	前7時00分に発令されている場合は通学待機とし、午前10時0
業療法学科、看護学科	0分においても継続されている場合はその日は臨時休校とする。午
	前10時00分までに解除された場合は、午後の授業は実施する。
鍼灸学科2部、柔道整復学科2	午後3時30分に発令されている場合は通学待機とし、午後4時3
部、スポーツ医療学科	O分においても継続されている場合はその日は臨時休校とする。

- ③ 授業中に「特別警報」「暴風警報」が発令された場合や、公共交通機関(JR等)に運休等の支障が生じるような場合には、教育活動を中止し下校させることがある。
- ④ 上記による対応を原則とするが、暴風警報以外の気象警報が発令された場合も含め、その 状況により学校長が別途判断することがある。

#### 4. 授業及び時限

- (1) 授業は、単位制度に基づいて行なわれ、講義、演習、実習、臨床実習及び臨地実習があり、 他に学生が出席を求められるものに、特別講義、補習、学校行事がある。
- (2) 授業は、1時限90分を原則とし、講義は、1時間を45分、臨床実習及び臨地実習は、同 60分とする。

授業時間の区分は、以下のとおりである。

区分		1	部	2 部					
時 限	I	I II III IV		I	П	Ш			
	9:00	10:40	13:00	14:40	17:55	18:50	20:30		
時 間	$\downarrow$								
	10:30	12:10	14:30	16:10	18:40	20:20	22:00		

- ① 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科の臨床実習は、修業時間(1部10:40~16:10 2部17:55~22:00)以外及び休業日に行う。
- (3) 休講・補習・特別講義・学校行事
  - ① 休講及び時間割の変更

学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割の変更を行うことがある。

これについては、掲示板により通知する。

② 補習及び特別講義

授業時間が必要時間数に満たない場合には、補習を行うことがある。また、学校長が必要 と認めた場合には特別講義を行うことがある。これらについても掲示板により通知する。

③ 球技大会、体育祭などの学校行事には、学生の健康増進、学生間の親睦のために出席が求められる。

#### Ⅱ. 出席、補講、休学、退学、転部及び在籍期間などについて

1. 出席すべき日数

学年の学期期間で上記休業日以外は、出席しなければならない。

#### 2. 授業の出席

- (1) 講義、演習は、授業時間数の3分の2以上の出席が必要である。
- (2) 実技、実習、臨床実習及び臨地実習は、原則として必ず出席しなければならない。
  - ① 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科の実技、実習、臨床実習、補習授業及び特別授業には、原則として必ず出席しなければならない。止むを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。
  - ② 柔道整復学科の実技、実習及び臨床実習において、やむを得ない理由での欠課は、5分の 1の範囲で認めることがある。
  - ③ 理学療法学科、作業療法学科の臨床実習において、やむを得ない理由での欠課は、5分の 1の範囲で認めることがある。
  - ④ 看護学科の臨地実習は、実習時間を満たさなければならない。
  - <看護学科の臨地実習の履修について>

基礎看護学実習Ⅰの単位取得をしていない者は、基礎看護学実習Ⅱを履修することはできない。

基礎看護学実習Ⅱの単位取得をしていない者は、専門分野別実習を履修することはできない。

ただし、小児看護学実習Iについては、この限りでない。

また、専門分野別実習の単位取得をしていない者は、統合実習を履修することはできない。

⑤ スポーツ医療学科の実技、学内実習及び学外現場実習において、やむを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。

#### 3. 授業中の心得

(1) 講義・演習・実技・実習について

以下の項目を遵守し、真摯な態度で授業に臨まねばならない。

- ① 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。
- ② 授業中、体調の急変等やむを得ない理由による早退や、教員の指示等特別な事情のない限り、教室を退出しないこと。
- ③ 授業中の携帯電話・スマートフォン等は、必ず電源を切って鞄等に入れておくこと。また、授業以外でも節度を守って使用すること。
- ④ 授業中に飲食をしないこと (ガムを噛むことを含む)。また、授業中飲食物を机の上や床

に置かないこと。

- ⑤ 私語や居眠りをしないこと。
- ⑥ 実技・実習科目受講の際は、実技にみあった服装(白衣・ジャージ、学校指定の靴)とし、 化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の染色は控え、肩に付かない よう短くまとめること。
- ⑦ 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科は、所定の道具も準備すること
- ⑧ スポーツ医療学科は、学内実習の受講の際は、トレーニングウエア、運動シューズを着用し、学外現場実習時には、学校指定のウェア、ポロシャツ、運動シューズを着用すること。

#### (2) 臨床実習及び臨地実習について

病院などでの臨床実習及び臨地実習では、以下の項目を遵守し、真摯な態度で臨まねばならない。

- ① 病院と取り交わした提携書に従って行動する。
- ② 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。
- ③ 時間を厳守し、自己の存在をはっきりさせ、許可なく行動しない。事故については、すみ やかに報告をする。
- ④ 実習中知り得た情報は、個人情報保護法に基づき取り扱い、他言してはならない。
- ⑤ 服装は清楚で、印象の良い身だしなみを心がける。化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめる。
- ⑥ 感染に注意し、また伝播者にならないよう感染予防の基本を病院のマニュアルにそって 励行する。
- ⑦ 実習中の事故については、すみやかに実習指導者に報告し指示を受ける。
- ⑧ 臨床実習及び臨地実習の詳細については、学科毎に実習前のガイダンス時に説明する。

#### 4. 欠席、遅刻、早退及び欠課について

- (1) 欠席は、1日の授業を全て休んだ場合をいう。
- (2) 遅刻は、授業開始より30分(2部の45分授業については15分)以内に入室した場合をいう。
- (3) 早退とは、授業時間の60分(2部の45分授業については30分)以上出席し退出した場合をいう。
- (4) 欠課とは、出席時間が60分(2部の45分授業については30分)に満たない場合をいう。
- (5) 遅刻、早退の欠課への換算については、遅刻、早退は欠課 0.5回(2部の45分授業における欠課は、欠課 0.5回)と換算する。
- (6) 欠席、遅刻、早退及び欠課をするとき又はしたときは、それぞれの届を各学科の教務室に提出しなければならない。

## 5. 補講について

- (1) 出席時間数がやむを得ない理由により、当該科目の定められた出席時間数に達しない者は、 補講を受けなければならない。
  - ① 鍼灸マッサージ学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
  - ② 鍼灸学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
  - ③ 柔道整復学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
  - ④ 理学療法学科は、講義、演習、実技、実習、は3分の2、臨床実習は5分の4
  - ⑤ 作業療法学科は、講義、演習、実技、実習、は3分の2、臨床実習は5分の4
  - ⑥ 看護学科は、講義、演習、実技、実習、は3分の2、臨地実習は5分の5
  - ⑦ スポーツ医療学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
- (2) 補講の受講は、不可抗力によるやむを得ない理由(気象状況等による公共交通機関のダイヤの乱れ、急病、交通事故等)のみとし、「補講受講許可願」とその証明書等を提出し、学校長

が認めた場合に限る。

- (3) 補講が認められた場合は、追試験のみ受験できる(本試験は受験不可)。
- (4) 補講料は、 10,000円 / 1時限(90分)とする。ただし、感染症による出席停止や 入院など、学校長が認めた場合は、補講料を減免することがある。

#### ※看護学科の臨地実習の場合

#### ① 再実習

各実習期間内で実習単位の取得が不可の者は、長期休暇等を利用して、再実習を受ける ことができる。

ただし、再実習料を添えて「再実習願」を提出しなければならない。実習を長期に欠席した者は、再実習に準ずる。

再実習料は、5,000円/日とする。

#### ② 補習実習

実習を欠席または欠課した者は、補習実習を受けることができる。

#### 6. 忌引期間

(1) 忌引・出席停止は、欠課には含まれないが、それらを証明するもの(医師の診断書等)を必ず提出のこと。

提出がなされない場合は欠課とする。

(2) 学生の親族の死去に伴う忌引の期間は、下記のとおりとする。

区分	続柄	続柄 期間		続柄 期間 [		続柄	期間
	配偶者	10日	血族	おじ・おば	1日		
	父母	7日		孫・曽祖父母	1日		
血族	子供	7日		配偶者父母	3日		
皿沃	祖父母	3日	姻族	配偶者祖父母	1日		
	兄弟姉妹	3日	知法	配偶者兄弟姉 妹	1日		

遠隔地の場合は、旅行日として学校長判断により2日以内の日数を認める場合がある。

#### 7. 感染症による出席停止

下記の表に規定する感染症の場合は、出席停止とする。出席停止期間は、学校保健安全法施行規則に定める期間、医師の診断書にある期間、若しくは学校医の判断に従うものとする。

	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マール
	ブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原
第一種	体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る) 及び鳥インフ
	ルエンザ (病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであ
	ってその血清亜型がH5N1であるものに限る)
第二種	インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)、百日咳、麻しん、流
<b>步一</b> 性	行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱及び結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性
	角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

#### <出席停止期間の基準>

- (1) 第一種の感染症にかかった者については、治癒するまでの期間とする。
- (2) 第二種の感染症(結核を除く)にかかった者については、次の期間とする。ただし、病状により学校医の他の医師において、感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
  - ① インフルエンザ及び新型インフルエンザ等: 発症した後5日を経過し、かつ、解熱した

後2日を経過するまで。

- ② 百日咳: 特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了 するまで。
- ③ 麻しん: 解熱した後3日を経過するまで。
- ④ 流行性耳下腺炎: 耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、 全身状態が良好となるまで。
- ⑤ 風しん: 発しんが消失するまで。
- ⑥ 水痘: すべての発しんが痂皮化するまで。
- ⑦ 咽頭結膜熱: 主要症状が消退した後2日を経過するまで。
- ⑧ 髄膜炎菌性髄膜炎: 症状により学校医等において感染のおそれがないと認めるまで。
- (3) 結核及び第三種の感染症にかかった者については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

#### ※出席停止期間の算定の考え方

「○○した後△日を経過するまで」とした場合は、「○○」という現象が見られた日の翌日を第1日として算定する。

例えば、「解熱した後2日を経過するまで」の場合、月曜日に解熱一火曜日(解熱後1日目)一水曜日(解熱後2日目)一この間発熱がない場合一木曜日から出席可能となる。

第二種の各出席停止期間は基準であり、症状により医師の診断により判断する。

#### 8. 休学

学生の休学については、学則第22条に規定している。

### 9. 復学

学生の復学については、学則第24条に規定している。 原則、復学の時期は、年度の始めとする。

# 10 退学

学生の退学については、学則第25条に規定している。

#### 11. 転部

学生の転部については学則第29条に規定している。 ※鍼灸学科と柔道整復学科のみが対象となる。

#### 12. 在籍期間

学生の在籍期間は、下記の表の年数を超えることができない。

学科	在籍年数
鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科1部、鍼灸学科2部 柔道整復学科1部、柔道整復学科2部	6年
理学療法学科、作業療法学科、看護学科	8年
スポーツ医療学科	4年

#### Ⅲ. 学業成績などについて

単位の認定は、履修した科目に出席し、受験資格を得たものに対して行われる。また、試験方法は、 筆記試験が主であるが、授業科目によっては口頭、レポート、実技などによって行われる場合もある。

#### 1. 定期試験

学期末の試験を定期試験という。

- (1) 柔道整復学科では、前期及び後期のなかで、到達度確認試験を行うことができる。その評価は、定期試験の評価に加えることができる。
- (2) 看護学科とスポーツ医療学科においては、定期試験ではなく、授業科目の終了の都度試験が行われる。

#### 2. 受験資格

(1) 講義、演習の受験資格

授業時間数の3分の2以上出席している者

(2) 実技・実習の受験資格

授業時間数の5分の4以上出席している者

※理学療法学科、作業療法学科及び看護学科では、3分の2以上出席している者

(3) 臨床実習及び臨地実習の成績判定資格

実習時間の5分の4以上の出席している者

※看護については、実習時間を満たす者

# 3. 追試験

追試験については学則第33条に規定している。

- (1) 感染症等やむを得ない理由により定期試験を欠席した者は、追試験を受けることができる。 その場合は80点を上限に採点される。
- (2) 追試験を受ける者は、受験料を添えて「追試験受験願」を期日までに当該学科長、学生総合 窓口を経由のうえ学校長に提出し、許可を受けなければならない。
- (3) 受験料は、1科目あたり1,000円とする。ただし感染症による追試験受験料は発生しない。

#### 4. 再試験

- (1) 定期試験の成績が合格点に達しない者は、再試験を受けることができる。その場合は60点を上限に採点される。
- (2) 再試験を受ける者は、別に定める受験料を添えて「再試験受験願」を期日までに、当該学科 長、学生総合窓口経由のうえ学校長に提出し、許可を受けなければならない。
- (3) 再試験は、基本的に1回限りとする。ただし、再試験においても合格しない者は、学科会議 の協議により再度試験を行うことがある。
- (4) 受験料は、1科目あたり1,000円とする。

#### 5. 試験にあたっての注意事項

- (1) 試験開始時刻に遅刻した者は、受験することができない。ただし、公共交通機関のダイヤの 乱れ等による場合は遅延証明の提出を条件に、試験開始後15分までの遅刻を認めることが ある。
- (2) 受験に際しては、必ず学生証を携行すること。万一学生証を忘れてきた場合には、試験期間中に1回のみ、学生総合窓口にて、仮学生証の交付を受け代替とすることができる。仮学生証は、当該発行日のみ有効とする。
- (3) 試験開始後、原則、試験時間の半分を経過した後に退出することができる。ただし、一度退出した者は再び入室できない。
- (4) 試験中に不正行為をした者は、退場を命ずる。直ちに当該学期の受験資格が与えられず、すでに受験した科目も無効とする。

#### 6. 単位認定と単位取得

(1) 講義、実習等に必要な時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において、60点以上の

成績を得た者には、所定の単位が与えられる。これを学校側からは、「単位認定」、学生側からは、「単位取得」という。

(2) 講義、演習、実習、実技の成績は、以下のとおりである。

秀……90点以上

優……80点以上90点未満

良……70点以上80点未満

可……60点以上70点未満

不可……60点未満

#### (3) 臨床実習及び臨地実習の成績評価

実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記(2)のように最終評価する。

※理学療法学科と作業療法学科は、実習前後の評価を臨床実習の成績評価に含めて成績評価する。

#### (4) 学業成績を総合的に評価するための基準

- ① 学業成績を総合的に評価するための基準として、GPA (Grade Point Average) を用いる。
- ② GPA は、学期ごとに算定する。
- ③ GPA の算定に当たっては、履修した各科目の評価に、GP (Grade Point) (以下「GP」という。)を割り当て、その平均を取ることとし、以下の数式により算定する。

# (履修登録した GPA 対象科目の GP×その科目の単位数)の合計 履修登録した GPA 対象科目の単位数の合計

- ④ GPA の対象科目は、学則別表(1~7)に定める授業科目のうち、成績評価で示すことのできる授業科目とする。
- ⑤ GPの割当てについては、学則第32条に定める試験の評価(以下「成績評価」という。) に応じて、次表に定める GP を割り当てる。

成績評価	GP
秀(90~100点)	4
優(80~89点)	3
良(70~79点)	2
可(60~69点)	1
不可(59点以下)	0

#### (5) 成績の通知

学生の成績結果は、前期、後期それぞれの成績集計後に、連帯保証人に郵送する。

#### Ⅳ. 進級、卒業の認定について

#### 1. 進級認定

進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出 席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、 学校長が決定する。

また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。

# 2. 卒業認定

卒業認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての

科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教 員会議の議を経て、学校長が決定する。

## Ⅴ. 褒賞

学生の褒賞については学則第40条に規定している。

#### Ⅵ. 懲戒

学生の懲戒については学則第41条に規定している。

#### Ⅷ. 除籍

学生の除籍については学則第26条に規定している。

#### Ⅲ. その他留意事項

1. 休講・授業時間割等の変更

学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割を変更する場合がある。これについては掲示板により通知する。

2. 掲示による通知、連絡について

学校からの学生への連絡は、原則として全て掲示で通知する。

緊急の場合もありえるので、必ず朝夕の2回は各掲示板を見るようにしておくこと。また、掲示板の見落としに起因する責任は学校側にはないので、特に注意しておくこと。

3. 提出物について

各種申請書、レポート、その他当該学科教務及び学校事務局学務部学生総合窓口から学生に提出物を求められたときは、必ず定められた期限内に提出しなければならない。

- 4. 不明な点は、当該学科教員及び学校事務局学務部学生相談窓口に問合せた上で、十分理解するように努めること。
- 5. 大学併修について

本校では、理学療法学科(任意)、作業療法学科(任意)及び看護学科(必修)を対象に、九州保健福祉大学通信教育部と教育提携契約を締結している。履修方法等については、別に定める。

6. ここに定めない事項については、学校長の指示に従うものとする。

#### 附則

この履修規程は、学則、その他の細則に基づき、令和2年4月1日から施行する。

施行後の規程は、令和2年4月1日以降の入学生に適用し、令和2年3月31日以前の入学生については、各種届出及び申請様式以外は、なお従前の規程による。

	令和2年度 学 事 暦【前 期】 スポーツ医療学科														
		月		火		水		木		金		±		В	$\Box$
					1		2	入学式	3	1・2年合同オリエンテーション	4		5		
	6	授業日	7	授業日	8	授業日	9	授業日	10	授業日	11		12		
月月	13	授業日	14	授業日	15	授業日	16	授業日	17	授業日	18		19		月月
'	20	授業日	21	授業日	22	授業日	23	授業日	24	授業日	25		26		] '
	27	授業日	28	球技大会	29	昭和の日	30	授業日							
									1	授業日	2		3	憲法記念日	
1_	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7	授業日	8	授業日	9		10		
5月	11	授業日	12	授業日	13	授業日	14	授業日	15	授業日	16		17		5月
''	18	授業日	19	授業日	20	授業日	21	授業日	22	授業日	23		24	実習日	] '
	25	授業日	26	授業日	27	授業日	28	授業日	29	授業日	30		31		
	1	授業日	2	授業日	3	授業日	4	授業日	5	授業日	6		7		
	8	授業日	9	授業日	10	授業日	11	授業日	12	授業日	13		14		
6	15	授業日	16	授業日	17	授業日	18	授業日	19	授業日	20		21		6月
''	22	授業日	23	授業日	24	授業日	25	授業日	26	授業日	27	学園祭	28		
	29	授業日	30	授業日											
					1	授業日	2	授業日	3	授業日	4		5		
	6	授業日	7	授業日	8	授業日	9	授業日	10	授業日	11		12		
月月	13	授業日	14	授業日	15	授業日	16	授業日	17	授業日	18		19		月月
''	20	授業日	21	授業日	22	授業日	23	海の日	24	スポーツの日	25		26	実習日	] `
	27	授業日	28	授業日	29	授業日	30	授業日	31	授業日					
											1		2		
	3	授業日	4	授業日	5	授業日	6	授業日	7	夏休み	8		9		
8	10	山の日	11	夏休み	12	夏休み	13	夏休み	14	夏休み	15		16		8

木

24

夏休み

授業日

授業日

授業日

授業日

敬老の日

授業日

月

24

31

9 月

夏休み

授業日

授業日

授業日

秋分の日

授業日

火

夏休み

授業日

授業日

授業日

授業日

授業日

23

ATゼミとはATに必要な実技などを練習する日のことです。 現場実習は土曜日・日曜日・祝日に入ります。概ね1ヶ月前までには日程を掲示しお知らせします。 -注意事項-学事歴の予定は変更する場合があります。その際は、連絡いたします。

夏休み

授業日

授業日

授業日

授業日

夏休み

授業日

体育祭

授業日

授業日

25

12

26

±

23

13

20 27

日

#### 令和2年度 学 事 暦【後期】 スポーツ医療学科

		月		火		水		木		金		±		B	П
							1	授業日	2	授業日	3		4		
	5	授業日	6	授業日	7	授業日	8	授業日	9	授業日	10		11		1
10	12	授業日	13	授業日	14	授業日	15	授業日	16	授業日	17		18		10
'	19	授業日	20	授業日	21	授業日	22	授業日	23	授業日	24		25	創立記念日	7
	26	授業日	27	授業日	28	授業日	29	授業日	30	授業日	31				Ī
													1		
	2	授業日	3	文化の日	4	授業日	5	授業日	6	授業日	7		8		
11	9	授業日	10	授業日	11	授業日	12	授業日	13	授業日	14	AT第1次?	15		11
月	16	授業日	17	授業日	18	授業日	19	授業日	20	授業日	21		22		月
	23	授業日	24	授業日	25	授業日	26	授業日	27	授業日	28		29		
	30	授業日													
			1	授業日	2	授業日	3	授業日	4	授業日	5		6		
	7	授業日	8	授業日	9	授業日	10	授業日	11	授業日	12		13		
12	14	授業日	15	授業日	16	授業日	17	授業日	18	授業日	19		20		12 月
′′	21	救急法救急員受講	22	救急法救急員受講	23	救急法救急員受講	24	救急法救急員受講	25	救急法救急員受講	26		27		] ′′
	28	授業日	29	年末年始休み	30	年末年始休み	31	年末年始休み							
									1	年末年始休み	2		3		
1	4	授業日	5	授業日	6	授業日	7	授業日	8	授業日	9		10		1
1_	11	成人の日	12	授業日	13	授業日	14	授業日	15	授業日	16		17	JATI検定?	
月	18	授業日	19	授業日	20	授業日	21	授業日	22	授業日	23		24		月
	25	授業日	26	授業日	27	授業日	28	授業日	29	授業日	30		31		
	1	授業日	2	授業日	3	授業日	4	授業日	5	授業日	6		7		
2	8	授業日	9	授業日	10	授業日	11	建国記念の日	12	授業日	13		14		2
月	15	授業日	16	授業日	17	授業日	18	授業日	19	授業日	20	AT実技試験?	21	AT実技試験?	月
	22	授業日	23	天皇誕生日	24	授業日	25	授業日	26	授業日	27		28		
	1	ATゼミ	2	ATゼミ	3	ATゼミ	4	ATゼミ	5	ATゼミ	6		7		
3	8	ATゼミ	9	ATゼミ	10	ATゼミ	11	ATゼミ	12	卒業式	13		14		3
	15	ATゼミ	16	ATゼミ	17	ATゼミ	18	ATゼミ	19	ATゼミ	20		21		
月	22	ATゼミ	23	ATゼミ	24	ATゼミ	25	ATゼミ	26	ATゼミ	27		28		月
	29		30		31		Ш		Ш				Ш		
		月		火		水		木		金		±		日	

ATゼミとはATに必要な実技などを練習する日のことです。 現場実習は土曜日・日曜日・祝日に入ります。概ね1ヶ月前までには日程を掲示しお知らせします。 -注意事項-学事歴の予定は変更する場合があります。その際は、連絡いたします。

# スポーツ医療学科 教育課程・単位数

区分	授業科目	単位数	項目別	時間数	授業単位数			
区方	技条件日	<b>单位</b> 数	合計単位数	时间数	第1学年	第2学年		
	スポーツ人間学	1		16	1			
	スポーツ経営学	1		16	1			
	コーチング論I	1		16	1			
共	コーチング論Ⅱ	1		16	1			
通	発育発達論	1	11	16	1			
科	トレーニング科学I	2		30	2			
目	スポーツ医学 I	1		20	1			
	スポーツ医学Ⅱ	1		24	1			
	スポーツ栄養学Ⅰ	1		16	1			
	スポーツ心理学I	1		24	1			
	アスレティックトレーナーの役割	2		30	2			
	トレーニング科学Ⅱ	2		30	2			
	バイオメカニクス	2		30	2			
	運動生理学	2		30	2			
	スポーツ心理学 Ⅱ	2		30		2		
	運動器の解剖と機能I	1		20	1			
	運動器の解剖と機能Ⅱ	1		20	1			
	運動器の解剖と機能Ⅲ	1		20	1			
	スポーツの外傷と障害I	2		30		2		
	スポーツの外傷と障害 Ⅱ	2		30		2		
専	スポーツ医学Ⅲ	2		30		2		
門	スポーツ動作の観察と分析	1	42	20	1			
科	検査の測定と手法I	1	1	20	1			
目	検査の測定と手法Ⅱ	1		20	1			
	コンディショニング I	2		30	2			
	コンディショニングⅡ	2		30		2		
	コンディショニングⅢ	2		30		2		
	アスレティックリハビリテーションI	2		30	2			
	アスレティックリハビリテーションⅡ	2		30		2		
	アスレティックリハビリテーションⅢ	2		30		2		
	救急処置	2		30		2		
	スポーツ栄養学Ⅱ	2		30		2		
	アスレティックトレーナー総合演習I	2		30		2		
	アスレティックトレーナー総合演習Ⅱ	2		30		2		
	見学実習	1	_[	30	1			
現	検査測定と評価実習、アスレティックリハビ	1		30	1			
場	リテーションプログラム作成実習		_					
実	スポーツ現場実習	1	6	30	1	4		
習	アスレティックリハビリテーション実習	1	_	30		1		
	総合実習Ⅰ	1	_	30		1		
	総合実習Ⅱ	1		30	0.2	1		
合計	年次別合計	59	59	1, 034	32	27		
	合計				32	59		

# 四国医療専門学校 スポーツ医療学科 自治会会則

# 第1章 総則

第1条 本会は四国医療専門学校スポーツ医療学科自治会と称す。(以下本会と称する。)

# 第2章 機関

- 第2条 本会に次の機関を置く。
  - 1. 自治議会

(役員は任意に選出された自治会員ならびに各 H・R の級長・副級長で構成される。) 自治議会に以下の役職・委員会を設置する。

自治会長

自治副会長

会計

会計監査

アルバム委員会

書記

- 第3条 自治会員はスポーツ医療学科 4 名を第1学年の H・R より選出する。
- 第4条 本会は、自治会議の内容を伝達する義務を有する。
  - 1. H•R 学生会
  - 2. 部活動・同好会活動
  - 3. 会計監査

# 第1節 自治総会

第5条 原則、開会しない。自治総会は学校長の承認を必要とし、本会の最高決議機関と する。必要に応じて、授業時間以外に開会する。通常の決議は本会でおこなわれる。

# 第2節 自治議会

- 第6条 本会は次のことを行う。
  - 1. 会則の決定及び変更
  - 2. 予算及び決算
  - 3. 学生会の議決事項の承認
  - 4. その他
- 第7条 自治会員の任期は4月1日より3月31日までの1年とする。再任を妨げないが、 各学科において、最終学年時に在籍する学生は着任できない。

# 第3節 委員会

**第8条** 本会は、本会が新たな委員会が必要と判断した場合、その都度新たな委員会を設置できる。その委員会は自治会員によって運営される。

# 第4節 H•R

- 第9条 本会活動の基礎としてH·R学生会を置く。
- 第10条 H·Rに級長、副級長を置き、自治議会に参加する。

# 第5節 部活動·同好会活動

第11条 部活動は個人の能力の増進、趣味、個性の伸長を図ることを目的として集まっ

た会員によってクラブを組織し、顧問教師の指導のもとに随時活動の場を持つ。

- 第12条 部活動は、運営が適切におこなわれていると学校長が認めたときにその設置を認め、顧問の職員を置くことができ、活動内容に応じた予算を受けることができる。
- 第13条 部活動は原則として10名以上の在籍者がいなければ結成することができない。
- 第14条 部活動には正、副部長を置き、正、副部長は自治議会の要求があれば議会に出席し、質問に答えなければならない。
- 第15条 部活動に準ずる組織として同好会があり、一定期間の活動の後、学校長がその 運営が健全なものと判断したものに限り、部活動に昇格することができる。

# 第3章 会費

- **第16条** 本会の会費は自治会費、また学校長が必要と判断した予算、その他によってこれを充てる。
- 第17条 本会の会費は、本会の活動目的を達成するため次の区分により学生会費を1学年の後期に授業料と併せて学校に納入しなければならない。一度納入した会費は返還することが出来ないものとする。
- 第18条 本会の予算割り当ては、毎年2月に自治議会を開会しこれを決定する。ただし、 予算決定後、前年度の決算をできない活動についてはこの限りではない。
- 第19条 本会は卒業アルバムの作成に関与し、2年次後期授業料において卒業アルバム の作成費を納入する。

# 第4章 帳簿

- 第20条 本会に次の帳簿を置く。
  - 1. 自治会則及ぶ諸規定級
  - 2. 各役員名簿
  - 3. 議事録
  - 4. 会計簿
  - 5. 備品台帳
  - 6. その他

# 第5章 修正及び改正

- 第21条 本会則の修正及び改正の動議は自治会員の3分の1以上の要求がある場合認められる。
- 第22条 本会則の修正及び改正は、その動議が認められ、議会員の3分の2以上の議決 のある場合可決される。

# 第6章 会員の権利及び義務

**第23条** 自治総会及び自治議会において決議されたすべての事項に対して会員は忠実に 実行する義務と責任を有する。

# 第7章 附則

**第24条** 本会則は平成18年4月1日よりこれを施行する。 本会則は平成21年9月28日よりこれを改正し施行する。

_	17	_

# シラバス

# スポーツ心理学 [

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
共通科目	1	1	1	24	必修	上野 耕平

#### 8 授業の概要

教育学部准教授による授業。スポーツが個人の人格形成に及ぼす効果や、個人の性格や環境などがスポーツの選択・パ フォーマンスに影響することを知る。

#### 9 到達目標

【一般目標】スポーツへの動機づけやコーチングの評価などの原理・原則から具体的な方法論まで学ぶ。

#### 【行動目標】

①知識 スポーツ活動や運動のパフォーマンスを促進する指導に際して、心理的スキルは不可欠なものであり、その 具体的知識は指導成果を大きく左右する。主に競技者及び指導者自身のメンタルマネジメントについての考 え方を幅広く学ぶ。

②技能

③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

第1回 スポーツと心

第2回 スポーツにおける動機づけ

第3回 コーチングの心理①

第4回 コーチングの心理②

第5回 メンタルマネジメント(1)

第6回 メンタルマネジメント②

メンタルマネジメント③ 第7回

第8回 指導者のメンタルマネジメント①

第9回 指導者のメンタルマネジメント②

第10回 指導者のメンタルマネジメント③

スポーツによる精神障害と対策① 第11回

スポーツによる精神障害と対策② 第12回

#### 11 学習方法

座学

#### 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

初回授業にて通知 ②技能

③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

共通Ⅱ、Ⅲ

# スポーツ人間学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
共通科目	1	前期	1	1 6	必修	片山 昭彦

#### 8 授業の概要

大学教授による授業。「スポーツとは何か」の定義および現代スポーツの考え方を理解する。

#### 9 到達目標

【一般目標】「スポーツの文化性」に基づくスポーツ観やスポーツ規範(スポーツマンシップ、フェアプレーほか)の重要性について学習する。

#### 【行動目標】

①知識

国、地方自治体等の行政とスポーツ振興方策とのかかわりの現状と課題についての認識を深める。その上で。 地域住民主体の総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団について、指導者の関わり方を学ぶ。スポーツ と社会のかかわりについて理解し、今後のスポーツ振興がどう進んでいくのかを学ぶ。フェアプレー、体罰、 各種ハラスメントについて指導者としてどう関わるべきかを認識する。障害者とスポーツの関係について理 解し、現状や課題を把握し、指導者としての関わり方を学ぶ。

②技能

③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

第1回 スポーツの概念と歴史

第2回 文化としてのスポーツ

第3回 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり

第4回 地域スポーツクラブの機能と役割

地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」

第5回 社会の中のスポーツ

第6回 スポーツと人権

第7回 障害者とスポーツ①

第8回 障害者とスポーツ②

#### 11 学習方法

座学

#### 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点を加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト

(I · Ⅱ)

# スポーツ経営学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
共通科目	1	前期	1	1 6	必修	片山 昭彦

#### 8 授業の概要

大学教授による授業。スポーツと社会の関わりについて理解し、我が国のスポーツプロモーションについて世界の動向 を交えて学ぶ。

#### 9 到達目標

【一般目標】リスクマネジメント、スポーツ事故における法的責任について理解する。

#### 【行動目標】

①知識 総合型地域スポーツクラブの育成と運営をはじめとする、さまざまなスポーツ組織やスポーツ事業のあり方 とその効果的、効率的な運営・管理を具体的に学び、理解を深める。

②技能

③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

我が国のスポーツ振興施策① 第1回

第2回 我が国のスポーツ振興施策②

スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 第3回

第4回 総合型地域スポーツクラブの育成と運営①

第5回 総合型地域スポーツクラブの育成と運営②

スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング① 第6回

第7回 スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング②

スポーツ事業のプロモーション 第8回

# 11 学習方法

座学

#### 12 評価方法

1)知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

# 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト

(II)

#### コーチング論 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
共通科目	1	前期	1	1 6	必修	山神 眞一

#### 8 授業の概要

大学教授による授業。スポーツ指導者が社会に求められる背景と役割を理解する。日本スポーツ界の現状と目指すべき方向性を正しく理解し、「スポーツ科学」や「トップアスリートの育成」など指導を実践する上で、最も基本となるフィールドを知る。

#### 9 到達目標

【一般目標】指導活動にあたり、対象者に応じた適切なスポーツ指導計画の立案および、スポーツには「内在する危険」があり、安全確保への配慮が欠かせないことを知る。

#### 【行動目標】

①知識 指導活動にあたり、対象者に応じた適切なスポーツ指導計画の立案および、スポーツには「内在する危険」があり、安全確保への配慮が欠かせないことを知る。実際のスポーツ指導において、指導者はまず「望ましいプレーヤー」とは何かを描く必要があり、その上で、プレーヤーの自発性・積極性を導き出すことの重要性を学ぶ。プレーヤーとの関係のあり方やミーティングの手法などと共に、総合的な競技力向上のための理

念を理解する。

②技能

③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

第1回 スポーツ指導者とは

第2回 スポーツ指導者の倫理

第3回 指導者の心構え・視点

第4回 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割

第5回 指導計画のたて方

第6回 スポーツ活動と安全管理

第7回 プレーヤーと指導者の望ましい関係

第8回 ミーティングの方法

# 11 学習方法

# 座学、実技

# 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト( [・

Ⅲ)

#### コーチング論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
共通科目	1	前期	1	1 6	必修	鶴身 邦幸

#### 8 授業の概要

上級コーチによる授業。評価活動から計画の立案、チームマネジメントのほか、情報の戦略的活用に欠かせない活動な どに求められる役割を理解し、現場での指導法を学ぶ。

#### 9 到達目標

【一般目標】競技者を育成する上で、競技者個人やチームを対象に広い視野から身に付けておくべきスキルを学ぶ。 【行動目標】

- 正しいコーチングテクニックを知る。 ①知識
- 実践を通して正しくコーチングできる。 ②技能
- ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

- 世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割 第1回
- 第2回 トップアスリートを育てるために~指導者が持つべき視点~①
- 第3回 トップアスリートを育てるために~指導者が持つべき視点~②
- トップアスリートの育成・強化の方法とその評価① 第4回
- トップアスリートの育成・強化の方法とその評価② 第5回
- 競技力向上のためのチームマネジメント① 第6回
- 競技力向上のためのチームマネジメント② 第7回
- 競技力向上のための情報とその活用 第8回

#### 11 学習方法

座学、実技

#### 12 評価方法

- 1)知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

# 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト

# 発育発達論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
共通科目	1	前期	1	1 6	必修	宮本 賢作

#### 8 授業の概要

大学准教授による授業。子どもの発育発達特性を知り、スポーツ活動・運動が子どもの心身に与えるさまざまな影響と ケガや病気を正しく理解する。

#### 9 到達目標

【一般目標】発育ステージに応じたプログラム作りを学ぶ。

## 【行動目標】

①知識 スポーツ活動の広まりは、スポーツ指導における対象の多様さをともなう。中高年者、女性など数を増す一 方の指導対象について、その特性を理解し、それぞれへの具体的な対応について学ぶ。

②技能

③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

発育発達期の身体的特徴、心理的特徴① 第1回

第2回 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴②

発育発達期に多いケガや病気① 第3回

第4回 発育発達期に多いケガや病気②

第5回 発育発達期のプログラム

中高年者とスポーツ 第6回

女性とスポーツ① 第7回

女性とスポーツ② 第8回

#### 11 学習方法

座学、実技

#### 12 評価方法

1)知識 初回授業にて通知

初回授業にて通知 ②技能

③態度 出席点として加算

# 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト

(I · Ⅱ)

# トレーニング科学I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
共通科目	1	前期	2	3 0	必修	石川 雄一

#### 8 授業の概要

大学教授による授業。評価活動から計画の立案、チームマネジメントのほか、情報の戦略的活用に欠かせない活動など に求められる役割を理解し、現場での指導法を学ぶ。

#### 9 到達目標

【一般目標】スポーツに求められる「体力像」の概念を知り、体力の諸要素を高めるために行うトレーニング全般につ いて学習する。

#### 【行動目標】

①知識 実践に求められる基礎知識および、トレーニングの形態別・体力要素別の分類に基づきそれぞれの効果を正 しく認識する。「トレーニング計画」や「体力テスト」、「スキルの獲得」など実践活用への課題と解決、応用 の可能性に至るまで幅広く学ぶ。

#### ②技能

③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

第1回 体力とは

トレーニングの進め方 第2回

第3回 トレーニングの種類①

トレーニングの種類② 第4回

第5回 トレーニング理論とその方法①

トレーニング理論とその方法② 第6回

トレーニング理論とその方法③ 第7回

第8回 トレーニング計画とその実際①

トレーニング計画とその実際② 第9回

トレーニング計画とその実際③ 第 10 回

体力テストとその活用① 第11回

体力テストとその活用② 第12回

スキルの獲得とその獲得過程① 第13回

第14回 スキルの獲得とその獲得過程②

スキルの獲得とその獲得過程③ 第 15 回

# 11 学習方法

座学、実技

#### 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

#### 13 教科書 参考書

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト(Ⅰ・Ⅲ)

# スポーツ医学 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
共通科目	1	前期	1	2 0	必修	平尾 智広

#### 8 授業の概要

医学部教授による授業。評価活動から計画の立案、チームマネジメントのほか、情報の戦略的活用に欠かせない活動などに求められる役割を理解し、現場での指導法を学ぶ。

#### 9 到達目標

【一般目標】スポーツ活動と健康との密接なかかわりをはじめ、活動中に多いケガや病気の理解と対処法、救急時の処置など、スポーツ医学に関する知識を学ぶ。

# 【行動目標】

①知識 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給について学ぶ。安全で健康なスポーツ活動をサポートするシステムを はじめ、アスリートに生じやすい内科的障害と対策を理解する。

#### ②技能

③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

第1回 スポーツと健康

第2回 スポーツ活動中に多いケガや病気①

第3回 スポーツ活動中に多いケガや病気②

第4回 救急処置①

第5回 救急処置②

第6回 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給①

第7回 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給②

第8回 アスリートの健康管理(1)

第9回 アスリートの健康管理②

第10回 アスリートの内科的障害と対策

# 11 学習方法

座学

#### 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト

(I · Ⅲ)

# スポーツ医学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
						田賀谷健一、
共通科目	1	後期	1	2 4	必修	浪尾敬一 (AT)、
						加納賢一 (AT)、

#### 8 授業の概要

スポーツ外傷の診療経験のある病院部長ならびにAT による授業。身体を動かす運動器の働きを系統的に理解し、身体 運動を力学的に検証するスポーツバイオメカにクスの基礎を知り、スポーツにおける正しい運動動作の技能・技術についての知識を深める。

#### 9 到達目標

【一般目標】アスリートに生じやすい外科的障害を理解しその予防と対応策、リハビリ、コンディショニングなどの実際を身に付ける。

#### 【行動目標】

- ①知識 「精神障害」「特殊環境」「アンチドーピング」など、スポーツを取り巻くさまざまな環境における医学的知識を学ぶ。
- ②技能
- ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 運動器のしくみと働き①
- 第2回 運動器のしくみと働き②
- 第3回 スポーツバイオメカニクスの基礎①
- 第4回 スポーツバイオメカニクスの基礎②
- 第5回 アスリートの外傷・障害と対策①
- 第6回 アスリートの外傷・障害と対策②
- 第7回 アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画① (山根担当)
- 第8回 アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画② (山根担当)
- 第9回 コンディショニングの手法① (山根担当)
- 第10回 コンディショニングの手法② (山根担当)
- 第11回 特殊環境下での対応
- 第12回 ドーピング防止

#### 11 学習方法

座学

#### 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト

(III)

# スポーツ栄養学 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
共通科目	1	後期	1	1 6	必修	東亜弥子

#### 8 授業の概要

大学講師による授業。健康の保持・増進、さらにはスポーツ活動・運動を支える栄養摂取についての基本的な知識を得る。併せて正しい食習慣が健康的なスポーツライフをマネジメントする上での第一歩であることを学習する。

#### 9 到達目標

【一般目標】スポーツ活動と健康との密接なかかわりをはじめ、活動中に多いケガや病気の理解と対処法、救急時の処置など、スポーツ医学に関する知識を学ぶ。

## 【行動目標】

①知識 アスリートに対する栄養指導の重要性を理解し、スポーツにおける栄養摂取の役割および関係する栄養素などについての知識を身に付ける。アスリートにとって適切な食事やトレーニングの目的にかなった食事のとり方などを具体的に学ぶ。

#### ②技能

③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

第1回 スポーツと栄養①

第2回 スポーツと栄養②

第3回 スポーツと栄養③

第4回 スポーツと栄養④

第5回 アスリートの栄養摂取と食生活①

第6回 アスリートの栄養摂取と食生活②

第7回 アスリートの栄養摂取と食生活③

第8回 アスリートの栄養摂取と食生活④

# 11 学習方法

座学

#### 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

## 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト

(I · Ⅲ)

# スポーツ栄養学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	2	後期	2	3 0	必修	東 亜弥子

#### 8 授業の概要

大学講師による授業。

1) アスリートの身体組成、からだ作りとウエイトコントロール 2) トレーニングスケジュール、競技特性と食事、コンディショニングと栄養摂取、水分補給 3) 栄養欠陥に基づく疾病と対策 4) 特殊環境下における栄養ケア 5) サプリメントの利用時の留意点 6) アスリートの栄養教育

#### 9 到達目標

【一般目標】アスリートにおける栄養・食事摂取の意義を理解できるようになる。

#### 【行動目標】

- ①知識 栄養欠陥に基づく疾病の知識を学び、その対策を講じることができるようになる
- ②技能 合宿・遠征などの特殊環境下における栄養ケアができるようになる。
- ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 スポーツ栄養サポートとは
- 第2回 アスリートの身体組成、からだ作りとウエイトコントロール①
- 第3回 アスリートの身体組成、からだ作りとウエイトコントロール②
- 第4回 トレーニングスケジュール、競技特性と食事①
- 第5回 トレーニングスケジュール、競技特性と食事②
- 第6回 栄養欠陥に基づく疾病と対策①
- 第7回 栄養欠陥に基づく疾病と対策②
- 第8回 様々な状況下における栄養ケア(期分けによる食事)①
- 第9回 様々な状況下における栄養ケア (期分けによる食事) ②
- 第10回 サプリメントと栄養エルゴジェニック①
- 第11回 サプリメントと栄養エルゴジェニック②
- 第12回 アスリートの栄養指導、栄養教育の実際①
- 第13回 アスリートの栄養指導、栄養教育の実際②
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

## 11 学習方法

#### 座学

#### 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

#### 参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト⑨「スポーツと栄養」 「アスリートの栄養・食事ガイド(日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会編集)

# アスレティックトレーナーの役割

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	1	前期	2	3 0	必修	加納 賢一 (AT)、 浪尾 敬一 (AT)、

#### 8 授業の概要

バレーボールチームなどでチーム運営に関わった経験のある AT による授業。

- 1) アスレティックトレーナーとは 2) アスレティックトレーナーの業務 3) コーチ・スポーツドクターとの連携協力
- 4) 組織の運営と管理 5) 倫理規定

#### 9 到達目標

【一般目標】アスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学ぶ。 【行動目標】

- ①知識 アスレティックトレーナーとは何かを理解できるようになる。他の専門スタッフと連携協力できるようになる。
- ②技能 組織の運営及び管理能力を養うことを理解する。
- ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 アスレティックトレーナーとは①
- 第2回 アスレティックトレーナーとは②
- 第3回 アスレティックトレーナーとは③
- 第4回 アスレティックトレーナーの役割①
- 第5回 アスレティックトレーナーの役割②
- 第6回 アスレティックトレーナーの役割③
- 第7回 医科学スタッフとの連携協力①
- 第8回 医科学スタッフとの連携協力②
- 第9回 医科学スタッフとの連携協力③
- 第10回 組織の運営と管理①
- 第11回 組織の運営と管理②
- 第12回 組織の運営と管理③
- 第13回 アスレティックトレーナーと倫理①
- 第14回 アスレティックトレーナーと倫理②
- 第15回 まとめ

# 11 学習方法

座学、実技

#### 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

# 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト ①アスレティックトレーナーの役割

# トレーニング科学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	1	前期	2	3 0	必修	石川 雄一

#### 8 授業の概要

大学教授による授業。1) トレーニングの基礎的概念 ・トレーニングの原則 ・トレーニングの分類 ・トレーニン グの条件2) トレーニングの種類と科学的基礎 ・筋力 ・筋持久力 ・全身持久力 ・柔軟性 ・敏捷性 ・バラン ス ・協調性3) トレーニング効果の評価4) トレーニングと性5) トレーニングと発育・発達6) トレーニングと老 化7) トレーニングと栄養8) 疲労と疲労回復9) トレーニングト環境10) オーバートレーニング

#### 9 到達目標

【一般目標】各トレーニングの理論を実践を通して学ぶ。

#### 【行動目標】

- 各トレーニングの目的を理解する。 1)知識
- 各トレーニングを指導することができる。 ②技能
- 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。 ③ 態度 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

トレーニングの方法と実際① 第1回

トレーニングの方法と実際② 第2回

第3回 トレーニングの方法と実際③

第4回 トレーニングの方法と実際(4)

トレーニングの方法と実際⑤ 第5回

トレーニングの方法と実際⑥ 第6回

トレーニングの方法と実際⑦ 第7回

第8回 トレーニングの方法と実際®

トレーニングの方法と実際⑨ 第9回

トレーニングの方法と実際⑩ 第 10 回

トレーニングの方法と実際⑪ 第 11 回

トレーニングの方法と実際(12) 第12回

トレーニングの方法と実際① 第 13 回

トレーニングの方法と実際(4) 第 14 回

まとめ 第 15 回

#### 11 学習方法

座学、実技

#### 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト ⑥予防とコンディショニング

『トレーニングの科学的基礎―現場に通じるトレーニング 科学の基礎、トレーニング指導者テキスト・実践編

#### バイオメカニクス

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	1	前期	2	3 0	必修	山神 眞一

#### 8 授業の概要

#### 9 到達目標

【一般目標】バイオメカニクスの基本理論を習得する。

#### 【行動目標】

- ①知識 スポーツ競技者に対し、外傷・傷害予防、競技力向上に寄与できる能力を獲得する。
- ②技能 各トレーニングを指導することができる。
- ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 歩行のバイオメカニクス①
- 第2回 歩行のバイオメカニクス②
- 第3回 歩行のバイオメカニクス③
- 第4回 走動作のバイオメカニクス①
- 第5回 走動作のバイオメカニクス②
- 第6回 ストップ・方向転換のバイオメカニクス①
- 第7回 ストップ・方向転換のバイオメカニクス②
- 第8回 跳動作のバイオメカニクス①
- 第9回 跳動作のバイオメカニクス②
- 第10回 投動作のバイオメカニクス①
- 第11回 投動作のバイオメカニクス②
- 第12回 投動作のバイオメカニクス③
- 第13回 あたり動作のバイオメカニクス①
- 第14回 あたり動作のバイオメカニクス②
- 第15回 まとめ

## 11 学習方法

座学、実技

#### 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門 スポーツバイオメカニクス

科目テキスト ⑤検査・測定と評価

#### 運動生理学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	1	後期	2	3 0	必修	住谷 和則

#### 8 授業の概要

医学部教務職員による授業。1)筋収縮とエネルギー供給2)筋線維の種類とその特徴3)神経系による運動の調節

- 4) 運動と呼吸 5) 運動と循環6) 運動と内分泌7) 運動と代謝8) 身体組成と肥満9) 運動時の水分・栄養摂取1
- 0)運動と体温調節 11)運動と環境12)運動と発育・発達13)運動と老化(加齢)

#### 9 到達目標

【一般目標】スポーツ競技者に対し、外傷・傷害予防、競技力向上に寄与できる能力を獲得する。

# 【行動目標】

- ①知識 身体活動に伴い生じる生体変化と、運動の身体に及ぼす影響を理解する。
- ②技能
- ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 筋収縮とエネルギー供給
- 第2回 筋線維の種類と特徴
- 第3回 神経系による運動の調節
- 第4回 運動と呼吸
- 第5回 運動と循環
- 第6回 運動と内分泌
- 第7回 運動と代謝
- 第8回 身体組成と肥満
- 第9回 運動時の水分・栄養摂取
- 第10回 運動と体温調節
- 第11回 運動と環境
- 第12回 運動と発育発達
- 第13回 運動と老化
- 第14回 実習
- 第15回 実習

# 11 学習方法

座学、実技

#### 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ⑤検査・測定と評価

# スポーツ心理学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	2	前期	2	3 0	必修	上野 耕平

#### 8 授業の概要

大学准教授による授業。1)スポーツと認知2)動機づけ3)目標設定4)運動の学習5)スポーツと発達6)競技者 の性格と態度7)パーソナリティ8)メンタルトレーニング9)スポーツカウンセリング

#### 9 到達目標

【一般目標】競技者の心理を学ぶ。

#### 【行動目標】

- 競技者の心理について学び適切に対処する理論とスキルを身につける。 ①知識
- ②技能
- ③熊度

体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

# 10 授業計画

- スポーツと認知 第1回
- 第2回 動機づけ
- 第3回 目標設定
- 運動の学習① 第4回
- 第5回 運動と学習②
- スポーツと発達① 第6回
- 第7回 スポーツと発達②
- 第8回 スポーツと発達③
- 競技者の性格と態度① 第9回
- 競技者の性格と態度② 第10回
- パーソナリティ 第11回
- メンタルトレーニング(1) 第12回
- メンタルトレーニング② 第13回
- 第14回 スポーツカウンセリング①
- 第 15 回 スポーツカウンセリング②

#### 11 学習方法

座学、実技

## 12 評価方法

- 1)知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門 スポーツメンタルトレーニング教本 科目テキスト ⑥予防とコンディショニング

# 運動器の解剖と解剖学I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	1	前期	1	2 0	必修	浪尾 敬一(AT)、
<del>等</del> 门符日	'	印热	'	20	必修	加納 賢一(AT)、

#### 8 授業の概要

専門学校にて豊富な授業経験を持ち世界選手権帯同経験のある AT による授業。1) 運動器の解剖と機能概論 2) 体幹 の基礎解剖学と運動学

#### 9 到達目標

【一般目標】トレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能・運動について理解する。

# 【行動目標】

- ①知識 運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連付けて学習する。
- ②技能
- ③態度

体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

## 10 授業計画

- 第1回 体表の区分
- 第2回 運動の表し方
- 運動器の構造と機能① 第3回
- 第4回 運動器の構造と機能②
- 第5回 運動器の構造と機能③
- 第6回 脊柱の運動
- 第7回 頚椎の運動
- 第8回 胸椎と胸郭の運動
- 第9回 腰椎・仙椎・骨盤の運動
- まとめ 第10回

#### 11 学習方法

座学、実技

## 12 評価方法

- 1)知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

# 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ②運動器の解剖と機能

# 運動器の解剖と解剖学Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	1	前期	1	2 0	必修	浪尾 敬一 (AT)、 加納 賢一 (AT)、

#### 8 授業の概要

専門学校にて豊富な授業経験を持ち世界選手権帯同経験のある AT による授業。1) 上肢の基礎解剖と運動

#### 9 到達目標

【一般目標】トレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能・運動について理解する。

## 【行動目標】

- ①知識 運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連付けて学習する。
- ②技能
- ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

# 10 授業計画

- 第1回 上肢帯の運動①
- 第2回 上肢帯の運動②
- 第3回 上肢帯の運動③
- 第4回 肩関節の運動①
- 第5回 肩関節の運動②
- 第6回 肩関節の運動③
- 第7回 肘関節の運動
- 第8回 手関節の運動①
- 第9回 手関節の運動②
- 第10回 まとめ

# 11 学習方法

座学、実技

#### 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

## 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ②運動器の解剖と機能

# 運動器の解剖と解剖学Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	1	前期	1	2 0	必修	浪尾 敬一 (AT)、 加納 賢一 (AT)、

#### 8 授業の概要

専門学校にて豊富な授業経験を持ち世界選手権帯同経験のある AT による授業。1) 下肢の基礎解剖と運動

#### 9 到達目標

【一般目標】トレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能・運動について理解する。

#### 【行動目標】

- ①知識 運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連付けて学習する。
- ②技能
- ③態度

体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

## 10 授業計画

- 第1回 股関節の機能解剖と運動①
- 第2回 股関節の機能解剖と運動②
- 第3回 股関節の機能解剖と運動③
- 膝関節の運動① 第4回
- 第5回 膝関節の運動②
- 第6回 膝関節の運動③
- 足関節・足部の運動① 第7回
- 第8回 足関節・足部の運動②
- 足関節・足部の運動③ 第9回
- 第10回 まとめ

#### 11 学習方法

# 座学、実技

- 12 評価方法
  - ①知識 初回授業にて通知
  - ②技能 初回授業にて通知
  - **③態度** 出席点として加算

## 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ②運動器の解剖と機能

# スポーツ外傷と障害I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	2	前期	2	3 0	必修	内海 昌浩

#### 8 授業の概要

スポーツ外傷の診療経験のある整形外科医院長による授業。

1)上肢のスポーツ外傷 2)体幹のスポーツ外傷 スポーツ外傷・障害の成書にもとづき、スポーツ外傷、頭部障害、 スポーツ外傷の年齢、性差による特徴について学ぶ。

#### 9 到達目標

【一般目標】アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。 【行動目標】

①知識 上肢・体幹の主なるスポーツ外傷の病態,評価方法及び,重篤な外傷,年齢,性差によるスポーツ外傷の特 徴を習得することをねらいとする。

②技能

③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

第1回 体幹のスポーツ外傷・障害①頚部捻挫・バーナー症候群・頚部椎間板ヘルニア

第2回 体幹のスポーツ外傷・障害②頚部のそのほかの外傷・障害

体幹のスポーツ外傷・障害③腰部椎間板ヘルニア・腰椎分離症・筋筋膜性腰痛 第3回

体幹のスポーツ外傷・障害4組径部痛症候群・スポーツヘルニア 第4回

体幹のスポーツ外傷・障害⑤各障害に対するアスレティックリハビリテーション 第5回

第6回 体幹のスポーツ外傷・障害⑥各障害に対するアスレティックリハビリテーション

第7回 体幹のスポーツ外傷・障害⑦各障害に対するアスレティックリハビリテーション

上肢のスポーツ外傷・障害①肩関節前方脱臼・腱板損傷・肩鎖関節脱臼 第8回

上肢のスポーツ外傷・障害②投球傷害肩 第9回

第10回 上肢のスポーツ外傷・障害③肩のそのほかの外傷・障害

上肢のスポーツ外傷・障害④肘関節内側側副靭帯損傷 第 11 回

第 12 回 上肢のスポーツ外傷・障害⑤野球肘・テニス肘・滑膜ひだ障害

上肢のスポーツ外傷・障害⑥肘のそのほかの外傷・障害 第 13 回

上肢のスポーツ外傷・障害⑦手・指の外傷・障害 第14回

まとめ 第 15 回

#### 11 学習方法

座学、実技

## 12 評価方法

1)知識 初回授業にて通知

初回授業にて通知 ②技能

③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ③スポーツ外傷・障害の基礎知識

# スポーツ外傷と障害Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	2	前期	2	3 0	必修	田賀谷健一、浪尾敬一、加納賢一、

#### 8 授業の概要

スポーツ外傷の診療経験のある病院部長ならびに AT による授業。1)下肢のスポーツ外傷2) 重篤な外傷(頭部、脊髄損傷、大出血、等)3)年齢・性別による特徴(女性、高齢者、発育期、等)4)整形外科的メディカルチェックスポーツ外傷・障害の成書であれば、スポーツ外傷、頭部障害、スポーツ外傷の年齢、性差による特徴について学ぶ。

#### 9 到達目標

【一般目標】アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。 【行動目標】

- ① 知 下肢の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及び、重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習識 得することをねらいとする。そのほか重篤な外傷、年齢・性差別の外傷・障害について理解する。
- ②技能
- ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 下肢のスポーツ外傷・障害①肉離れ・打撲・骨折・骨化性筋炎
- 第2回 下肢のスポーツ外傷・障害②膝前十字靭帯損傷
- 第3回 下肢のスポーツ外傷・障害③膝後十字靭帯損傷・内側・外側側副靭帯損傷
- 第4回 下肢のスポーツ外傷・障害④半月板損傷・膝軟骨損傷
- 第5回 下肢のスポーツ外傷・障害⑤そのほかの膝関節外傷・障害
- 第6回 下肢のスポーツ外傷・障害⑥下腿部肉離れ・アキレス腱断裂・脛骨過労性障害
- 第7回 下肢のスポーツ外傷・障害⑦コンパートメント症候群・足関節、足部の外傷・障害
- 第8回 重篤な外傷①頭蓋部
- 第9回 重篤な外傷②脊髄損傷
- 第10回 重篤な外傷③胸腹部外傷
- 第11回 重篤な外傷④大出血
- 第12回 そのほかの外傷 顔面部
- 第13回 年齢・性別による特徴
- 第14回 スポーツ整形外科的メディカルチェック
- 第15回 まとめ

#### 11 学習方法

座学、実技

#### 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

## 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ③スポーツ外傷・障害の基礎知識

# スポーツ医学Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	2	後期	2	3 0	必修	大山英郎、
<del>3</del> 1 177 🗖	2	[交形]		3.0	北崎	浪尾敬一、加納賢一

#### 8 授業の概要

脳外科部長ならびに AT による授業。アスリートにみられる内臓器官などの疾患(病気)1.循環器系疾患 2.呼吸系疾 患 3. 消化器系疾患 4. 血液疾患 5. 皮膚疾患 6. 腎・泌尿器疾患 7. 代謝性疾患 など 疾患につき、その病態、症状、運 動時の対応策(運動許可の条件を含む)、処置、予防策について学習する。

#### 9 到達目標

【一般目標】アスリートにみられる内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置、予防措置について理解する。 【行動目標】

①知識 内臓器官などの疾患の病態、症状について認識できるようになるとともに、運動時の対応策(運動許可の条 件を含む)、処置、予防策を講じることができるようになる。

②技能

③熊度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

第1回 循環器系疾患

第2回 呼吸系疾患

第3回 消化器系疾患

血液疾患 第4回

第5回 皮膚疾患

第6回 腎•泌尿器疾患

代謝性疾患 第7回

第8回 感染症(1)

感染症② 第9回

第10回 感染症③

アスリートにみられる病的現象 オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群 第11回

外環境の変化による運動時における生体の変化 第12回

女性・高齢者など特異的な障害、メディカルチェックの意義 第13回

ドーピングコントロール 第14回

まとめ 第 15 回

## 11 学習方法

# 座学、実技

## 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト 4健康管理とスポーツ医学

# スポーツ動作の観察と分析

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
声明된다	1	後期	-1	2.0	必修	加納 賢一(AT)、
専門科目	'	[ 授 <del>則</del>	'	2 0	必1多	浪尾 敬一(AT)、

#### 8 授業の概要

専門学校にて豊富な授業経験を持ち世界選手権帯同経験のあるATによる授業。

1) アスレティックトレーナーに必要な評価2) スポーツ動作の観察と分析

#### 9 到達目標

【一般目標】アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的 と意義を理解し、6 つのスポーツ基本動作についてそのバイオメカニクス、動作に影響をあたえる機能的と体力的要因を説明できる能力を習得することを目的とする。

## 【行動目標】

- ①知識 競技者の動きを観察し、動作の問題点を指摘することができる。
- ②技能 競技者の動作の問題点を指摘し、適切に改善に導くことができる。
- ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 スポーツ動作の観察・分析の目的と意義
- 第2回 歩行のバイオメカニクス
- 走動作のバイオメカニクス 第3回
- ストップ・方向転換のバイオメカニクス 第4回
- 跳動作のバイオメカニクス 第5回
- 投動作のバイオメカニクス 第6回
- 第7回 あたり動作のバイオメカニクス
- バイオメカニクスを用いた動作分析① 第8回
- バイオメカニクスを用いた動作分析② 第9回
- 第10回 バイオメカニクスを用いた動作分析③

#### 11 学習方法

# 座学、実技

- 12 評価方法
  - ①知識 初回授業にて通知
  - ②技能 初回授業にて通知
  - 出席点として加算 ③態度

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ⑤検査・測定と評価

# 検査の測定と手法I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
古明刊 口	1	後期	-1	0.0	必修	浪尾 敬一(AT)、
専門科目	'	[ 授 <del>州</del>	'	2 0	必修	加納 賢一(AT)、

#### 8 授業の概要

専門学校にて豊富な授業経験を持ち世界選手権帯同経験のあるATによる授業。

1) アスレティックトレーナーに必要な評価

#### 9 到達目標

【一般目標】アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解 し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。

## 【行動目標】

- ①知識 各部位の頚側方法を理解する。
- ②技能 各部位を正確に測定・評価できる。
- ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 アスレティックトレーナーによる評価の目的、意義及び役割
- 第2回 機能評価のプロセス(1)
- 第3回 機能評価のプロセス②
- 第4回 機能評価に必要な検査測定①
- 機能評価に必要な検査測定② 第5回
- 第6回 機能評価に必要な検査測定③
- アスリハ及びコンディショニングの目標設定とプログラムの立案(1) 第7回
- アスリハ及びコンディショニングの目標設定とプログラムの立案② 第8回
- アスリハ及びコンディショニングの目標設定とプログラムの立案③ 第9回
- まとめ 第 10 回

# 11 学習方法

座学、実技

# 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- 初回授業にて通知 ②技能
- ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ⑤検査・測定と評価

# 検査の測定と手法Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	1	後期	1	2 0	必修	浪尾 敬一(AT)、
<del>(1</del> 114日	'	1友州	'	20	必修	加納 賢一(AT)、

### 8 授業の概要

専門学校にて豊富な授業経験を持ち世界選手権帯同経験のある AT による授業。

1) アスレティックトレーナーに必要な検査測定の手法

#### 9 到達目標

【一般目標】アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解 し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。

# 【行動目標】

- 各部位の頚側方法を理解する。 1)知識
- ②技能 各部位を正確に測定・評価できる。
- 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。 ③態度

正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度を身につける。

## 10 授業計画

- 第1回 姿勢・身体アライメント・筋萎縮の観察
- スポーツ動作における不良姿勢 第2回
- 第3回 関節弛緩性検査・関節可動域
- 第4回 筋タイトネス
- 徒手筋力検査 第5回
- 筋力、筋パワー測定 第6回
- 全身持久力の測定 第7回
- 敏捷性の測定 第8回
- 第9回 身体組成の測定(インピーダンス)
- 第10回 測定結果のフィードバック

## 11 学習方法

座学、実技

## 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ⑤検査・測定と評価

# コンディショニングI

科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
声明된다	1	後期	0	3 0	必修	加納 賢一(AT)、
専門科目	'	[ 授 <del>則</del>	2	3.0	必1多	浪尾 敬一(AT)、

## 8 授業の概要

世界選手権帯同しコンディショニング経験のある AT による授業。

- 1) コンディショニングの把握と管理2) コンディショニング方法3) 傷害予防を目的としたコンディショニング方法
- 4) 競技種目特性とコンディショニング

#### 9 到達目標

【一般目標】コンディショニングの概念を理解し、スポーツ実践者(競技者) が目標とする競技活動において最高のパ フオーマンスを発揮するための要因、具体的な方法の実際を競技特性を踏まえ学ぶ。

- ①知識
- コンディショニングの目的、要素を理解し、その評価法を学び、コンディショニングを意識したトレーニン グ計画の立案、アドバイスができるようになることをねらいとする。
- 多様なスポーツ現場でその時々の求められる目的にあったコンディショニングにおける実際の方法を学び、 ②技能 現場に対応できる能力を身につけることをねらいとする。
- 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 ③態度

#### 10 授業計画

- コンディショニングとは・コンディショニングの要素 第1回
- 第2回 評価法
- トレーニング計画とコンディショニング 第3回
- 競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際① 第4回
- 競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際② 第5回
- 競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際③ 第6回
- 競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際④ 第7回
- 疲労回復を目的とした方法と実際 第8回
- ウォーミングアップとクーリングダウン 第9回
- フィットネスチェック 第10回
- 第11回 フィールドテスト(1)
- フィールドテスト② 第 12 回
- 第13回 フィールドテスト③
- フィールドテスト4 第14回
- 第 15 回 まとめ

### 11 学習方法

座学、実技

## 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ⑥予防とコンディショニング

# コンディショニングⅡ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
市明刊口	-1	<b>34. ₩</b> □		2.0	.iv 16 <del>5</del>	鹿倉二郎(マスターAT)・
専門科目	'	後期	2	3 0	必修	浪尾 敬一(AT)

#### 8 授業の概要

コンディショニング経験のあるマスターAT ならびに AT による授業。

1) コンディショニングの実際2) テーピング総論

#### 9 到達目標

【一般目標】コンディショニング方法を習得し、予防的アプローチとして実践で使え指導できるようになることを狙い とする。

# 

- ①知識 テーピングの定義、目的、有孔性を理解する。
- ②技能 各部位に正確にテーピング処置ができる。コンディショニングを実践できる。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 ストレッチング(1)
- 第2回 ストレッチング②
- 第3回 代謝系トレーニング(1)
- 第4回 代謝系トレーニング②
- 第5回 筋カトレーニング①
- 第6回 テーピング(1)
- 第7回 テーピング②
- 第8回 テーピング③
- 第9回 テーピング4
- 第10回 テーピング⑤
- 第11回 テーピング⑥
- 第12回 筋カトレーニング②・コーディネーショントレーニング
- 第13回 スタビリティトレーニング
- 第14回 アジリティトレーニング
- 第15回 まとめ

# 11 学習方法

座学、実技

# 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

# 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ⑥予防とコンディショニング

# コンディショニング皿

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	1	後期	0	2.0	必修	加納 賢一(AT)、
41144日	1	1友舟1	2	3 0	处形	浪尾 敬一(AT)、

#### 8 授業の概要

世界選手権に帯同しコンディショニング経験のある AT による授業。

1) コンディショニングの実際2) スプリントと持久性トレーニング3) サーキットトレーニング

#### 9 到達目標

【一般目標】コンディショニング方法を習得し、予防的アプローチとして実践で使え指導できるようになることを狙い とする。

## 【行動目標】

- ①知識 各種トレーニングの有効性を理解する。
- ②技能 各トレーニングの目的を理解し、指導することができる。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 スプリントトレーニング(1)
- 第2回 スプリントトレーニング②
- 第3回 スプリントトレーニング③
- 第4回 スプリントトレーニング(4)
- 第5回 持久的トレーニング①
- 第6回 持久的トレーニング②
- 第7回 持久的トレーニング③
- 第8回 持久的トレーニング④
- 第9回 サーキットトレーニング①
- 第10回 サーキットトレーニング②
- 第11回 サーキットトレーニング③
- 第12回 サーキットトレーニング④
- 第13回 アクアコンディショニング
- 第14回 スポーツマッサージ
- 第15回 まとめ

#### 11 学習方法

# 座学、実技

## 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

# 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ⑥予防とコンディショニング

# アスレティックリハビリテーション [

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	2	後期	2	3 0	必修	中村 俊哉 (AT)

## 8 授業の概要

病院勤務でアスリハ経験豊富な AT による授業。1)アスレティック リハビリテーションの考え方 2) 運動療法 (アスレティックリハビリテーション におけるエクササイズの基礎知識) 3)物理療法と補装具に関する基礎知識

#### 9 到達目標

【一般目標】アスレティックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎的知識の習得をねらいとする。物理療法について理解を深める。 【全教品標】

## 【行動目標】

- ①知識 アスレティックトレーナーが指導するアスレティックリハビリテーションの中で最も主要となる各種エクササイズの基礎理論と方法について学ぶ。アスレティックリハビリテーションの補助的な手法となる物理療法の基礎理論を学ぶ。物理療法の使用に関する理解を深め、対象者に正しいアドバイスができるようにすることをねらいとする。
- ②技能 リスクのないアスレティックリハビリテーションが指導できる。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 アスレティックリハビリテーションの考え方・定義
- 第2回 アスレティックリハビリテーションの概要
- 第3回 機能評価の考え方
- 第4回 リスク管理の基礎知識
- 第5回 エクササイズの目的
- 第6回 筋力回復・筋力増強エクササイズの基礎知識
- 第7回 関節可動域回復・拡大エクササイズの基礎知識
- 第8回 神経協調性回復・向上エクササイズの基礎知識
- 第9回 全身持久力回復・向上エクササイズの基礎知識
- 第10回 身体組成の管理に用いるエクササイズ
- 第11回 再発予防・外傷予防のためのスポーツ動作エクササイズ
- 第12回 物理療法学概論·温熱療法·寒冷療法
- 第13回 電気刺激療法・超音波療法・鍼灸マッサージ療法
- 第14回 装具
- 第15回 まとめ

# 11 学習方法

# 座学、実技

# 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

## 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門 科目テキスト ⑦アスレティックリハビリテーション

# アスレティックリハビリテーションⅡ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	2	後期	2	3 0	必修	中村 俊哉 (AT)

#### 8 授業の概要

病院勤務でアスリハ経験豊富な AT による授業。1) 外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践(上肢・体幹)

#### 9 到達目標

【一般目標】別項の「検査・測定と評価」、「アスレティックリハビリテーションの基礎知識」の知識統合の講義となる。
【行動目標】

- ①知識 例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、対象者に正しい指導ができる知識 と技術の習得をねらいとする。
- ②技能 リスクのないアスレティックリハビリテーションが指導できる。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 頚椎捻挫へのアスレティックリハビリテーション①
- 第2回 頚椎捻挫へのアスレティックリハビリテーション②
- 第3回 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション①
- 第4回 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション②
- 第5回 肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーション①
- 第6回 肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーション②
- 第7回 投球傷害肩へのアスレティックリハビリテーション①
- 第8回 投球傷害肩へのアスレティックリハビリテーション②
- 第9回 外傷性内側側副靭帯へのアスレティックリハビリテーション①
- 第10回 外傷性内側側副靭帯へのアスレティックリハビリテーション②
- 第11回 上腕骨内側上顆炎・外側上顆炎①
- 第12回 上腕骨内側上顆炎・外側上顆炎②
- 第13回 手関節捻挫①
- 第14回 手関節捻挫②
- 第15回 まとめ

#### 11 学習方法

座学、実技

# 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ⑦アスレティックリハビリテーション

## **アスレティックリハビリテーションⅢ**

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門科目	2	後期	2	3 0	必修	中村 俊哉 (AT)

#### 8 授業概要

病院勤務でアスリハ経験豊富な AT による授業。1) 授業の概要 外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践(下肢)2) 競技(種目)特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング

#### 9 到達目標

【一般目標】別項の「検査・測定と評価」、「アスレティックリハビリテーションの基礎知識」の知識統合の講義となる。
【行動目標】

- ①知識 例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、対象者に正しい指導ができる知識 と技術の習得をねらいとする。
- ②技能 リスクのないアスレティックリハビリテーションが指導できる。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション①
- 第2回 膝内側側副靭帯へのアスレティックリハビリテーション①
- 第3回 膝内側側副靭帯へのアスレティックリハビリテーション②
- 第4回 膝前十字靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション①
- 第5回 膝前十字靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション②
- 第6回 大腿屈筋群肉離れへのアスレティックリハビリテーション
- 第7回 偏平足障害へのアスレティックリハビリテーション
- 第8回 脛骨過労性骨障害へのアスレティックリハビリテーション
- 第9回 鵞足炎へのアスレティックリハビリテーション
- 第10回 膝蓋大腿靭帯障害へのアスレティックリハビリテーション
- 第11回 ランニング開始前のリハビリテーション①
- 第12回 ランニング開始前のリハビリテーション②
- 第13回 ランニング開始後のリハビリテーション①
- 第14回 ランニング開始後のリハビリテーション②
- 第15回 まとめ

# 11 学習方法

座学、実技

#### 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ⑦アスレティックリハビリテーション

# 救急処置

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
古田刊 日	0	<b>公 廿</b> □	0	2.0	.iv./iv <del>z</del>	浪尾 敬一(AT)、
専門科目	2	後期	2	3 0	必修	加納 賢一(AT)、

#### 8 授業概要

世界選手権帯同経験のある AT による授業。1) 救急処置の基本的知識 ・救急処置の重要性 ・救急処置実施者の心 ・救急処置の基本的留意点 2) 緊急時の対応計画と外傷の評価 3) 外傷時の救急処置 4) 緊急時の救命処置 5) 内科的疾患の救急処置 6) 現場における救急体制・救急体制の重要性と計画

#### 9 到達目標

【一般目標】救急処置の重要性について学び、救急処置の基本的な留意点について理解させることをねらいとする。
【行動目標】

- ①知識 適切な救急処置の手順を理解させるとともに、傷害評価の方法について理解させることをねらいとする。
- ②技能 スポーツ活動によって生じた傷害における具体的な救急処置の方法を学ぶことをねらいとする。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 救急処置の基本的知識
- 第2回 救急処置の重要性
- 第3回 救急処置実施者の心得 救急処置の基本的留意点
- 第4回 緊急時の対応計画と外傷の評価 事故時の評価手順(フローチャート)
- 第5回 緊急を要するか否かの評価 事故時の現場における傷害の評価
- 第6回 外傷時の救急処置 皮膚に傷のないケガの処置 患部の固定法 運搬法
- 第7回 緊急時の救命処置 心肺蘇生法 頭・頸部外傷時の救急処置法
- 第8回 内科的疾患の救急処置 熱中症の救急処置 過換気症候群の救急処置
- 第9回 ショックの予防と処置 その他のスポーツでよくみられる内科的疾患と救急処置
- 第10回 現場における救急体制 救急体制の重要性と計画 事故時のフロチャート
- 第11回 救急処置用器材に関する知識と準備
- 第12回 現場における救急体制の実際
- 第13回 競技種目特性と救急処置
- 第14回 各種競技会場におけるトレーナー活動の実際
- 第15回 まとめ

#### 11 学習方法

# 座学、実技

- 12 評価方法
  - ①知識 初回授業にて通知
  - ②技能 初回授業にて通知
  - ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門

科目テキスト ⑧救急処置

# アスレティックトレーナー総合演習 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
						吉田修、伊礼健太朗、
声明利日		後期		3 0	必修	久保晃信、立石泰崇、
専門科目	2	1友州	2	3.0	必修	大森鉄也、浪尾敬一、
						加納賢一、篠原良輔、

### 8 授業の概要

現場で活躍する講師(AT)による特別講義。各講師のトレーナーとしての考えや、実際の活動報告、実技デモンストレーション、施設見学などから自らの将来のヒントを得る。

#### 9 到達目標

【一般目標】現場トレーナーから学び、モチベーションを高める。

#### 【行動目標】

- ①知識 講師の話す内容を積極的にメモすることができる。
- ②技能 講師のデモンストレーションを模倣し、講義後も率先して練習することができる。
- ③態度 積極的に講師に質問することができる。

## 10 授業計画

- 第1回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第2回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第3回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第4回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第5回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第6回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第7回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第8回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第9回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第10回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第11回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第12回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第13回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第14回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第15回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。

# 11 学習方法

# 座学、実技

## 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

# アスレティックトレーナー総合演習 Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
						松本和子、辻美穂子、
専門科目	0	後期		2.0	必修	坂東聖仙、細谷義美、
等门科日 	2	[ 授 <del>州</del>	2	3 0	必修	浪尾敬一、加納賢一、
						猪越孝治、篠原良輔、

#### 8 授業の概要

現場で活躍する講師(AT)による特別講義。各講師のトレーナーとしての考えや、実際の活動報告、実技デモンストレーション、施設見学などから自らの将来のヒントを得る。

#### 9 到達目標

【一般目標】現場トレーナーから学び、モチベーションを高める。

## 【行動目標】

- ①知識 講師の話す内容を積極的にメモすることができる。
- ②技能 講師のデモンストレーションを模倣し、講義後も率先して練習することができる。
- ③態度 積極的に講師に質問することができる。

#### 10 授業計画

- 第1回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第2回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第3回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第4回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第5回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第6回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第7回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第8回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第9回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第10回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第11回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第12回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第13回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第14回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。
- 第15回 トレーナー活動報告【特別講義】※講師は日程を調節し、決定。

#### 11 学習方法

## 座学、実技

# 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

# 参考書

# 見学実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
現場実習	1	通年	1	3 0	必修	篠原良輔、加納賢一、 浪尾敬一、猪越孝治、

#### 8 授業の概要

実際のスポーツ現場をトレーナー視点で見学することでヒントを得る。

#### 9 到達目標

【一般目標】今まで習った知識や得た知識を使い実践することで様々な能力を身につけることをねらいとする。 【行動目標】

- ①知識 座学で得た知識の実践および、新たに実際の現場での知識の獲得。
- ②技能 実際の現場での技能習得。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての実習に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第2回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第3回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第4回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第5回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第6回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第7回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第8回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第9回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第10回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第11回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第12回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第13回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第14回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第15回 実習内容は日程を調節し、決定。

# 11 学習方法

## 実技

#### 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

# 13 教科書 参考書

# 検査・測定と評価実習 アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
現場実習	1	通年	1	3 0	必修	篠原良輔、加納賢一、
<b>以物关目</b>	'	<b>迪</b> 牛	'	3.0	2019	浪尾敬一、猪越孝治、

## 8 授業の概要

実技による検査測定や評価を行うことで正しい技術を身につける。

# 9 到達目標

【一般目標】今まで習った知識や得た知識を使い実践することで様々な能力を身につけることをねらいとする。

#### 【行動目標】

- ①知識 座学で得た知識の実践および、新たに実際の現場での知識の獲得。
- ②技能 実際の現場での技能習得。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての実習に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第2回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第3回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第4回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第5回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第6回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第7回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第8回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第9回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第10回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第11回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第12回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第13回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第14回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第15回 実習内容は日程を調節し、決定。

## 11 学習方法

# 実技

# 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

#### 13 教科書

参考書

# スポーツ現場実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
現場実習	1	通年	1	3 0	必修	篠原良輔、加納賢一、 浪尾敬一、猪越孝治、

#### 8 授業の概要

実際のスポーツ現場でストレッチ、テーピング、応急処置、アスレティックリハビリテーションプログラムの作成を自ら行うことでそれらの能力を身につける。

## 9 到達目標

【一般目標】今まで習った知識や得た知識を使い実践することで様々な能力を身につけることをねらいとする。

#### 【行動目標】

- ①知識 座学で得た知識の実践および、新たに実際の現場での知識の獲得。
- ②技能 実際の現場での技能習得。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての実習に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

## 10 授業計画

- 第1回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第2回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第3回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第4回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第5回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第6回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第7回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第8回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第9回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第10回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第11回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第12回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第13回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第14回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第15回 実習内容は日程を調節し、決定。

## 11 学習方法

#### 実技

## 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

13 教科書 参考書

# アスレティックリハビリテーション実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
現場実習	1	通年	1	3 0	必修	浪尾敬一、加納賢一、 猪越孝治、篠原良輔、

## 8 授業の概要

アスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践により適切なアスレティックリハビリテーション指導能力を習得する。

#### 9 到達目標

【一般目標】今まで習った知識や得た知識を使い実践することで様々な能力を身につけることをねらいとする。

#### 【行動目標】

- ①知識 座学で得た知識の実践および、新たに実際の現場での知識の獲得。
- ②技能 実際の現場での技能習得。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての実習に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

## 10 授業計画

- 第1回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第2回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第3回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第4回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第5回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第6回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第7回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第8回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第9回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第10回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第11回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第12回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第13回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第14回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第15回 実習内容は日程を調節し、決定。

#### 11 学習方法

# 実技

#### 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

# 13 教科書

## 14 学生への要望

参考書

# 総合実習 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
現場実習	1	通年	1	3 0	必修	浪尾敬一、加納賢一、 猪越孝治、篠原良輔、

#### 8 授業の概要

応急処置、検査測定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどの AT としての総合的な実技能力を身につける。

## 9 到達目標

【一般目標】今まで習った知識や得た知識を使い実践することで様々な能力を身につけることをねらいとする。

#### 【行動目標】

- ①知識 座学で得た知識の実践および、新たに実際の現場での知識の獲得。
- ②技能 実際の現場での技能習得。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての実習に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

## 10 授業計画

- 第1回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第2回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第3回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第4回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第5回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第6回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第7回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第8回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第9回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第10回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第11回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第12回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第13回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第14回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第15回 実習内容は日程を調節し、決定。

# 11 学習方法

## 実技

# 12 評価方法

①知識 初回授業にて通知

②技能 初回授業にて通知

③態度 出席点として加算

13 教科書 参考書

# 総合実習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
現場実習	1	通年	1	3 0	必修	浪尾敬一、加納賢一、 猪越孝治、篠原良輔、

#### 8 授業の概要

応急処置、検査測定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどの AT としての総合的な実技能力を身につける。

## 9 到達目標

【一般目標】今まで習った知識や得た知識を使い実践することで様々な能力を身につけることをねらいとする。

#### 【行動目標】

- ①知識 座学で得た知識の実践および、新たに実際の現場での知識の獲得。
- ②技能 実際の現場での技能習得。
- ③態度 正当な理由がない限り全ての実習に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。

#### 10 授業計画

- 第1回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第2回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第3回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第4回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第5回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第6回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第7回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第8回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第9回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第10回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第11回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第12回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第13回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第14回 実習内容は日程を調節し、決定。
- 第15回 実習内容は日程を調節し、決定。

# 11 学習方法

#### 実技

# 12 評価方法

- ①知識 初回授業にて通知
- ②技能 初回授業にて通知
- ③態度 出席点として加算

# 13 教科書

参考書

〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1 電話 0877-41-2360 ファックス 0877-41-2362